

* * *

学 会 記 事

* * *

§ 平成 20 年第 2 回日本核医学会理事会
議事録

日 時：平成 20 年 5 月 9 日 (金)
16 時 00 分～19 時 30 分
場 所：タワーホール船堀 3 階 306 号室
出席者：
理事長：遠藤啓吾
理 事：玉木長良，中條政敬，小須田茂，
米倉義晴，日下部きよ子，竹田 寛，
松田博史，福田 寛，望月輝一，
桑原康雄，伊藤健吾，中村佳代子，
畑澤 順，菅野 巖，荒野 泰，
汲田伸一郎，絹谷清剛，山崎純一
監 事：久保敦司，小泉 潔
次期会長：油野民雄
次々期会長：本田憲業
幹事長：織内 昇
事務局：神田正子
欠席者：なし

(敬称略，順不同)

議題

I. 審議事項

1. 春季大会について (遠藤啓吾理事長)
遠藤理事長が大会長として 2009 年 5 月 8 日 (金)～10 日 (日) にタワーホール船堀で行う。再来年の開催は 2010 年 5 月 7 日～9 日に同会場で行うことが了承された。
2. 定款の変更について (1)
(小須田茂理事)
「第 6 章 理事の選出」のうち「第 21 条の 6」の理事定員については，現状のままとして検討

を続ける。

その他，変更案は承認された。

3. その他

春季大会の負担を考慮して運営方式ならびに学会事務局の常勤職員増員の必要性等が議論された。

II. 報告事項

1. 第 48 回学術総会状況報告 (2)

(米倉義晴会長)

「協調と融合の夜明け - 分子からヒトへ -」をテーマとして，2008 年 10 月 24 日 (金)～26 日 (日) に，幕張メッセで日本核医学技術学会と合同で開催する。全員が参加可能なオープニングレセプションを初日に行い，2 日目の会員交流会も参加費を無料とする。合同シンポジウムは脳を対象に異分野の融合をテーマに行う。合同開会式，ユーズミーティング，サテライトミーティング等についても従来との日程の相違を含めて報告された。

2. 第 49 回学術総会準備状況報告

(油野民雄次期会長)

2009 年 10 月 1 日 (木)～3 日 (土) に，「核医学 - 再発見と技術革新」をテーマに旭川市で開催する。今年の SNM の際の案内ならびにポスター等に関して報告された。

3. 第 50 回学術総会準備状況報告

(本田憲業次々期会長)

2010 年 10 月 11 日 (木)～13 日 (土) に，大宮で技術学会と合同で開催する予定であることが報告された。プログラム作成に関する方針の説明ならびに 50 周年を記念した募金による記念誌の発行や核医学を一般に広めるための方策を

検討していることなどが報告された。

4. 第8回春季大会状況報告

(日下部きよ子大会長)

大会長より出席者数など状況が報告された。会場や運営に関しては今回の運営手法が次回以降に反映されるが、電子登録と支払に関するトラブルや収支の問題点ならびに参加費を含め今後の課題が指摘された。

5. 会計報告 (3) (中條政敬理事)

平成20年度科学研究費補助金が内定し、収支は予定通り運営されていることが報告された。

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (4) (松田博史理事)

海外からの投稿の増加とCase reportの不採択率ならびにIFの向上について報告された。Prof. Domenico Rubbelloを新しいEditorial Boardに迎えたこと、二重投稿に関する注意喚起や査読者登録を増やしたことなどについて報告された。

2) 教育・専門医審査委員会 (5)

(福田 寛理事)

第48回学術総会における8テーマの教育講演と専門医試験に関する報告があった。

核医学専門医やPET核医学認定医についてのQ&A案を作成した。PET核医学認定医と核医学専門医の取得者数の推移ならびに専門医制度・資格についての解説および議論があった。

PET核医学認定医の制度見直しと専門医制度との関連については委員会で議論を続ける。

3) PET核医学委員会 (6)

(伊藤健吾理事)

2008年のPET研修セミナーは試験問題と時間を従来より多くしたことが報告された。

FDG, アンモニア, メチオニン, 水の合成装置について「医療ニーズの高い医療機

器等要望書」を提出したとの報告があった。

高度医療評価制度が創設され、各保険医療機関は薬事未承認・適応外の医薬品および医療機器について、高度医療の実施に関する申請を医政局に行い、患者のニーズ等に対応可能となる。基本的には各施設が申請するが、学会が主導する必要性についても論議された。

FDG-PETの効能拡大についての米国の現状が紹介され、診療報酬改定に向けた論議があった。

4) 健保委員会 (7) (日下部きよ子理事)

「医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書」は既出。

「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用の例」に関し、¹²³I-MIBGのパーキンソン病診断に対する申請等について報告された。

FDG-PETの効能拡大とエビデンスとの関連について議論された。

5) 広報委員会 (中村佳代子理事)

会員数の増加や外国人への情報発信の観点からWebの改訂について報告された。

6) 公益法人化対応委員会

(遠藤啓吾理事長)

他の学会の動向を見ながら対応していくとの報告があった。

7) リスクマネジメント委員会

(畑澤 順理事)

検査に伴うリスクマネジメントの論文レビューを行うとともに、従事者や公衆の被ばくを含めて議論していくことが報告された。

8) 放射線防護委員会(米倉義晴理事)

核医学検査を受けた患者の空港でのアラームの事例等について報告された。

9) 倫理検討委員会 (竹田 寛理事)

PET検診の倫理指針作成に関し、PET検診を行っている医師が委員となっているが、ガイドラインの作成責任者が利益相反

を明記する必要性と人選について議論され、1年を目処に結論を出すこととなった。

10) 学会賞選考委員会 (菅野 巖理事)

学会賞の応募者を増加させるためメールを出して周知した件ならびに Asia Young Investigator Award の選考予定について報告があった。

11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (荒野 泰理事)

日本アイソトープ協会の委員会と協同して進めることが報告された。

12) 核医学認定薬剤師に関する検討委員会 (荒野 泰理事)

核医学認定薬剤師は核医学会が認定するが、業務の明確化と PET 薬剤を合成する chemist ならびに薬剤師会や技術学会との関連が議論された。

米倉会長から、総会で薬剤調整セミナーを合同企画として行いたいとの報告があった。

13) 将来計画委員会 (汲田伸一郎理事)

会員数ならびに専門医数の増加が報告され、会員および専門医のメリットや更新条件についての問題点が指摘された。若手の会員を増やすことが重要であるとの認識が示された。

9. ワーキンググループ (畑澤 順理事)

核医学会誌に3グループの報告を掲載する。

10. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(絹谷清剛理事)

第44回腫瘍・免疫核医学研究会を本年11月15日(土)に大宮ソニックシティで開催する予定であり、その内容について報告された。悪性褐色細胞腫の内照射療法ガイドラインが核医学会誌に掲載された。

2) 日本脳神経核医学研究会

(松田博史理事)

脳血管、てんかんおよびアルツハイマー病についてのガイドラインのなかで、てん

かんについては、てんかん学会とのすり合わせの後に完成予定であることが報告された。

3) 日本心臓核医学会 (山崎純一理事)

第18回心臓核医学会について紹介された。

心臓核医学講習会は今年も1,000人規模で行うことが報告された。

4) 呼吸器核医学研究会

(竹田 寛理事)

第19回は10月24日に開催されることおよびガイドライン作成中であることが報告された。

5) PET核医学分科会 (伊藤健吾理事)

本年8月22日~24日に裏磐梯で開催されるPETサマーセミナーについて報告された。

登録促進委員会では、デリバリーPETを行っている100以上の施設に対して分科会への登録を働きかけていること、デリバリーPET委員会ではアンケート調査を行い、現状の把握とハンドブックの作成をしていること、ならびにPET核医学セミナーの内容を見直すことについて報告された。

11. 国外学会等連携担当理事 (8)

(中村佳代子理事)

1) 世界核医学会

2010年9月18日~22日にケープタウンで行われる予定で、会員一人当たり1ドルを納めるよう要請されているが、欧州核医学会は応じていないことが報告された。

2) 米国核医学会

日本核医学会が提案した低酸素イメージングについてのセミナーは藤林氏をオーガナイザーとして行われることおよび核医学会ならびに分子イメージング学会のブース等について報告された。

3) アジアオセアニア核医学会

(ARCCNM 兼務)

本年10月31日から11月4日にニュー

デリーで行われ、遠藤理事長ほかの参加について説明があった。

4) 日韓中核医学会
特記事項なし。

5) 欧州核医学会

本年 10 月 11 日から 14 日に開催される。この中で SNM と合同でフィルムリーディングが行われ、アジアの代表として玉木理事と塚本江利子氏が参加することが報告された。

12. その他

1) 核医学専門技師認定機構について

第 3 回試験は 8 月に行われるが、会員が臨床問題の作成にあたったこと、受験者数の増加と研修セミナーの受講が更新に必要であることが報告された。専門技師は各施

設に 1~2 名を目標としている。

2) 核医学診断ガイドラインが完成したことが報告された。

3) 日本医学放射線学会用語委員会委員望月理事と小須田理事を推薦し了承された。

III. 確認事項

1. 前回議事録 (9)

前回議事録は確認された。

IV. その他

1. 平成 20 年度第 3 回理事会開催予定

平成 20 年 8 月 26 日 (火) 12 時から 16 時に日本アイソトープ協会で行う。